

# 山形県立図書館所蔵の往来物資料について

## — 目的別と出版地域別の分類整理 —

### Investigation report on "OURAIMONO" documents of Yamagata Prefectural Library possession:

A study based on the publication place and the purposeful classification analysis

郡 千寿子\*  
Chizuko KOHRI\*

#### 要 旨

山形県立図書館に所蔵されている近世期版本の往来物資料について、調査した概要を報告した。和本のみの目録はなく、調査対象に該当すると思われる近世期の往来物資料を選別し、分類整理した。総数では9本の近世期版本の往来物資料が確認された。目的別に分類してみると、消息科往来が5本、産業科往来が3本、女子用往来が1本であり、教訓科往来、社会科往来、語彙科往来、地理科往来、歴史科往来、理数科往来は所蔵が確認できなかった。出版地域別の分類では、仙台が1本であり、他の8本はすべて江戸の出版であったことが確認された。山形県における日本海沿岸の酒田市光丘文庫における調査では、江戸の出版より京都と大阪を加えた関西圏での出版資料が多かったことが特徴的であった。一方、内陸の山形県山形市に所在する山形県立博物館教育資料館の所蔵資料は、江戸が圧倒的に多数であり、その文化流入の相違が確認された。

山形県立図書館における今回の調査結果では、総数が多くはないが、山形県立博物館教育資料館での調査結果と同様に関西圏よりも江戸からの文化流入をうかがわせるものであり、興味深い結果であるといえる。往来物の分布を通して、地域の教育的背景の格差や文化伝播状況などを解明することを目的としているが、他地域との比較において貴重な報告である。

キーワード：山形、往来物、言語生活、地域文化、教育背景

#### 1 研究の背景について

近世期以降に出版された往来物資料を通して、実生活にどのようにそれらの文献資料が関わっていたのかの具体像を探ることを目的に研究<sup>1)</sup>をすすめている。往来物は、寺子屋などで手習いのために使用された教科書の類の総称であるが、近世期には様々な種類のもので出版された。従来の往来物研究は、教育史資料という側面からなされてきたが、日本社会の近代化や人間文化形成に果たした役割や影響など、多くの未開拓課題が存在し、新たな視点からの活用が期待されている。

しかし、文献資料の基礎的研究をはじめとして、発掘も十分にすすんでいない現状にあり、そうした事情を背景に、東北地域の調査研究<sup>2)</sup>を発端に、東北地域と海域でつながり、近世期に関西とも文化交流など関係が深かったと予測される、北陸地域にも調査対象<sup>3)</sup>を拡げて研究成果を公表してきた。地域間格差や文化伝播事情など研究の進展を目指し、山陰地域でも調査を開始し、研究成果<sup>4)</sup>を順次公表している。

本稿では、過去における東北の山形での研究調査時に改修中で調査研究ができなかった山形県立図書館所

\*弘前大学教育学部国語教育講座

Department of Japanese Language and Literature, Faculty of Education, Hirosaki University

蔵の往来物資料について報告する。日本海沿岸の酒田と山形県立博物館教育資料館での調査結果は公表しているが、その補強となる研究成果といえよう。

## 2 調査方法

従来すすめてきた所蔵往来物の調査にならい、原則として、写本は除き、版本に限って成立時期や出版元を確認した。調査対象の資料それぞれについて、目的別と出版地別に分類整理<sup>5)</sup>して、地域ごとの特徴について今後考察検討したいと思うが、写本を除いたのには意味がある。本研究の大きな目的のひとつは、地方における近世期の庶民生活について、出版文化を通して考えてみることである。写本は、その資料の内容を知るには重要な資料であるが、どこでどのような文献が出版され、それがどのような場所で使われてきたか、文化や教育の流通状況を解明するためには、版本の方がより大きな資料的価値をもつと考えたからである。

山形における往来物資料の所在調査は、山形県立博物館教育資料館および酒田市光丘文庫において実施済みで調査結果も公表している。調査当時、山形県立図書館が改修中であったため、調査研究が実施できなかったという事情があり、本稿であらためて補完調査として研究結果を報告する。

基本的に従来の調査手法を踏襲し、調査対象の往来物資料を厳選し、分類整理を試みた。文献資料の記載内容については、『国書総目録』<sup>6)</sup>および『古典籍総合

目録』<sup>7)</sup>と『往来物解題辞典 解題編』<sup>5)</sup>によって確認した。

## 3 調査結果

和本のみの目録はなく、所蔵資料を出版年や資料名による検索を基本として調査した。近世期の版本である調査対象資料と判断した9本の資料について書誌調査と画像を含めて次項で紹介するが、まずは目的別と出版地域別に整理しておきたい。

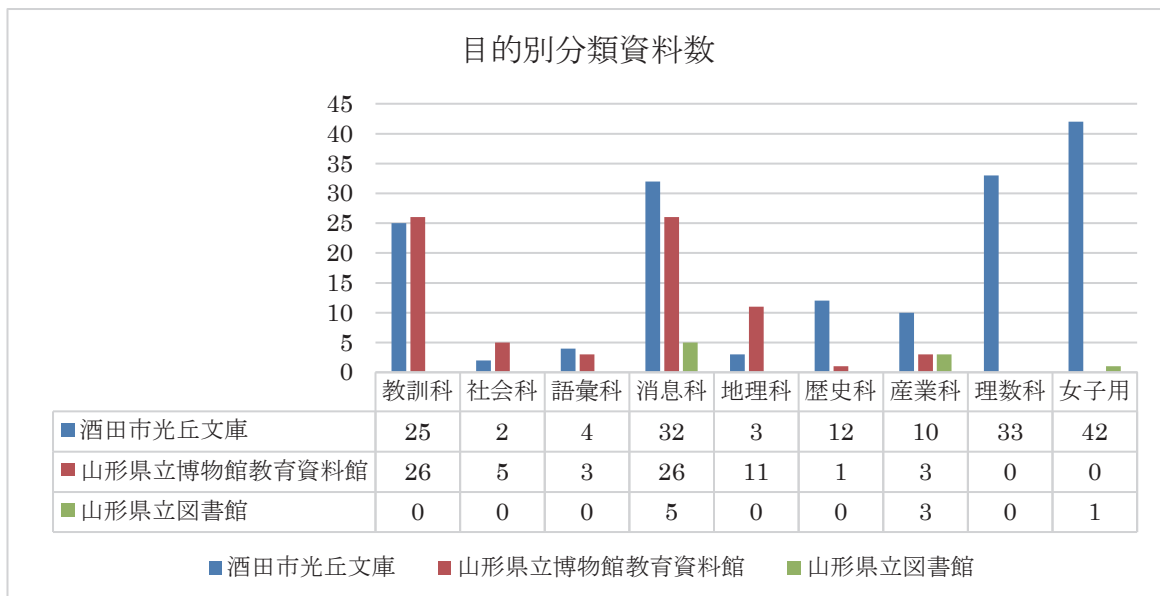
総数で9本の近世期版本の往来物資料が確認されたが、目的別に分類してみると、消息科往来が5本、産業科往来が3本、女子用往来が1本であり、教訓科往来、社会科往来、語彙科往来、地理科往来、歴史科往来、理数科往来は所蔵が確認できなかった。

消息科往来に分類整理した書名と資料番号を紹介すると『御家流仮名付庭訓往来』【資料番号370.9】、『消息往来』【資料番号370.9】、『大全消息往来詳註』【資料番号370.9】、『庭訓往来絵抄大全』【資料番号参照】、『風月往来』【資料番号816.6】の5本である。

産業科往来に分類整理した書名と資料番号を紹介すると『商売往来』【670.7】の3本で、書名は同一であるが、同様の資料ではなく、それぞれ別種の『商売往来』である。出版年も出版元も違うものであり、当時の『商売往来』が広く普及していた状況の一端がうかがえる。

女子用往来に分類整理した書名と資料番号を紹介すると『女庭訓往来』【資料番号370.9】である。消息科

【グラフ1】



往來の『庭訓往來』の一種であるが、女子用に編集された資料であり、女子用往來として整理した。総数が少ないため、傾向をみることも慎重であるべきだが、消息科往來と産業科往來の普及の様相が確認できる結果であるともいえるだろう。

後掲の【グラフ1】は、目的別分類における山形県立図書館の所蔵資料数に加えて、酒田市光丘文庫と山形県立博物館教育資料館の所蔵資料数との偏在を明確化するためにグラフ化して提示したものである。

出版地域別の分類では、仙台が1本であり、他の8本はすべて江戸の出版であったことが確認された。前述の産業科資料の『商売往來』のうち、「安政七」年に出版された資料に「仙台区分町」の書肆19軒が列挙されており、この資料以外はすべて江戸の出版であった。

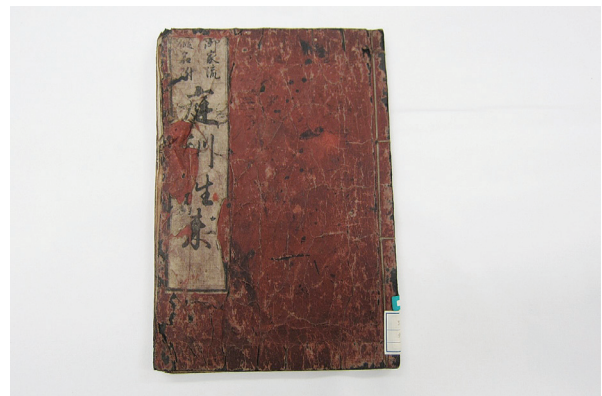
山形県における日本海沿岸の酒田市光丘文庫における調査<sup>2)</sup>では、江戸の出版より京都と大阪を加えた関西圏での出版資料が多かったことが特徴的であった。具体的に紹介すると、酒田市光丘文庫の近世期版本の往來物資料の総数は、163本であり、かなりの所蔵が確認された。江戸が61本で京都29本、大阪34本、その他が39本であった。江戸が多数を占めているようにみえるが、京都と大阪を合わせると63本であり、江戸より多いことになる。一方、内陸の山形県山形市に所在する山形県立博物館教育資料館の所蔵資料<sup>2)</sup>は、総数109本のうち江戸の出版資料が圧倒的多数であった。具体的に紹介すると、江戸49本で、京都10本、大阪7本、仙台8本、山形5本、南都（奈良）が1本で不明の資料が29本であった。京都と大阪を合わせても17本であり、江戸の49本には到底及ばないといえよう。このように日本海沿岸の酒田市と内陸部の山形市ではそ

の書籍という文化流入の相違が確認された。山形県立図書館における今回の調査結果は、総数が9本と少ないとはいえ、山形県立博物館教育資料館での調査結果と同様に関西圏よりも圧倒的に江戸からの文化流入をうかがわせるものである。酒田市光丘文庫と山形県立博物館教育資料館での比較検討考察を補完するものであり、興味深い結果であった。

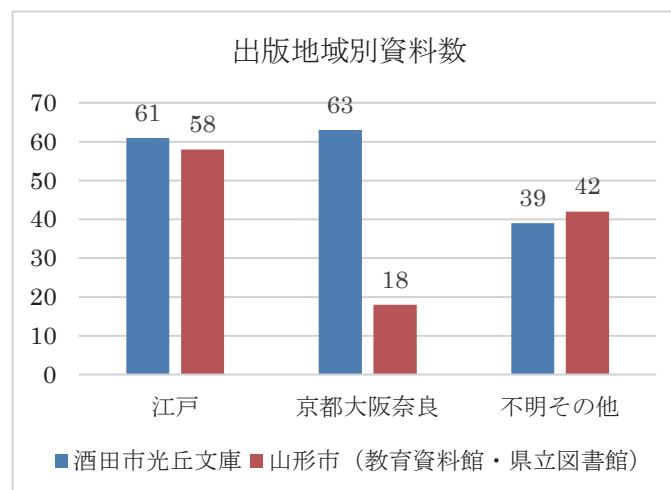
内陸の山形市に所在する山形県立博物館教育資料館と山形県立図書館の所蔵資料を合わせた資料数を日本海沿岸の酒田市光丘文庫と比較できるよう整理して【グラフ2】として後掲した。近世期の後半になると、関西圏だけでなく、江戸での出版が隆盛する。距離的な影響だけでなく、出版文化の拡大や流通といった要因も考えておく必要があるが、山形県において内陸部と日本海沿岸部の文化の流入状況や教育基盤に大きな差があるということは確認でき、それぞれの地域特性を考える上での貴重な調査報告といえるだろう。

#### 4 資料紹介

##### 4-1 『御家流仮名付庭訓往來』



【グラフ2】



〈表紙〉茶色

題箋有〔御家流假名附庭訓往来〕

〈形状〉縦25.4cm 横17.0cm

〈丁数〉全41丁

〈出版地〉江戸〔江戸書林文会堂 田佐助〕

〈出版年〉不明

〈分類〉消息科

#### 4-2 『女庭訓往来』

〈表紙〉薄青色

題箋有〔女庭訓往来〕

〈形状〉縦22.2cm 横15.2cm

〈丁数〉全71丁

〈出版地〉江戸〔江戸屋庄三衛板〕

〈出版年〉不明

〈分類〉女子用



#### 4-3 『消息往来』

〈表紙〉紺色

題箋無

〈形状〉縦25.5cm 横18.0cm

〈丁数〉全24丁

〈出版地〉江戸〔東都書林 人形町通〕

〈出版年〉安政3年

〈分類〉女子用



#### 4-4 『大全消息往来詳註』

〈表紙〉青色

題箋有〔消息往来詳註 全〕

内題〔大全消息往来詳註〕

〈形状〉縦25.6cm 横17.5cm

〈丁数〉全23丁

〈出版地〉江戸〔江戸通油町鶴屋喜右衛門〕

〈出版年〉天保2年

〈分類〉消息科



#### 4-5 『庭訓往来絵抄大全』

〈表紙〉紺色

題箋有〔庭訓往来絵抄大全〕

〈形状〉縦25.4cm 横18.0cm

〈丁数〉全52丁

〈出版地〉江戸〔江戸須原屋伊八衛板行〕

〈出版年〉享保2年

〈分類〉消息科



#### 4-6 『風月往来』

〈表紙〉薄青色

題箋有〔天保改正風月往来〕

〈形状〉縦18.0cm 横12.0cm

〈丁数〉全11丁

〈出版地〉江戸〔東都書林甘泉堂和泉屋市兵衛版〕

〈出版年〉嘉永3年

〈分類〉消息科



4-7 『商売往来』

〈表紙〉薄茶色

題箋有 [商売往来 東都書林錦耕堂]

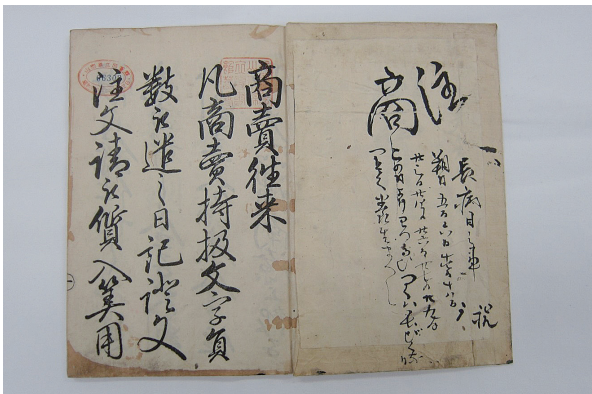
〈形状〉縦25.0cm 横17.0cm

〈丁数〉全15丁

〈出版地〉江戸 [東都書林錦耕堂]

〈出版年〉不明

〈分類〉産業科



4-8 『商売往来』

〈表紙〉青色

題箋有 [豊泰商売往来蔵全]



〈形状〉縦25.4cm 横17.2cm

〈丁数〉全11丁

〈出版地〉江戸 [東都書林森屋治兵衛版]

〈出版年〉元治2年

〈分類〉産業科

4-9 『商売往来』

〈表紙〉薄青色

題箋有 [商売往来]

〈形状〉縦23.0cm 横15.8cm

〈丁数〉全8丁

〈出版地〉仙台 [仙台国分町]

〈出版年〉安政7

〈分類〉産業科



## 5 まとめにかえて

山形県立図書館所蔵の近世期版本の往来物資料について、目的別と出版地域別の整理を含めて紹介した。総数では9本の近世期版本の往来物資料が確認された。目的別に分類してみると、消息科往来が5本、産業科往来が3本、女子用往来が1本であり、教訓科往来、社会科往来、語彙科往来、地理科往来、歴史科往来、理数科往来は所蔵が確認できなかった。出版地域別の分類では、仙台が1本であり、他の8本はすべて江戸の出版であったことが確認された。

山形県における日本海沿岸の酒田市光丘文庫における調査では、江戸の出版より京都と大阪を加えた関西圏での出版資料が多かったことが特徴的であった。一方、内陸の山形県山形市に所在する山形県立博物館教育資料館の所蔵資料は、江戸が圧倒的に多数であり、その文化流入の相違が確認されたのであった。山形県立図書館における今回の調査結果は、総数が多くはないが、山形県立博物館教育資料館での調査結果と同様に関西圏よりも江戸からの文化流入をうかがわせるも

のであり、興味深い結果といえる。

往来物の分布を通して、地域の教育的背景の格差や文化伝播状況などを解明することを目的としているが、日本海沿岸の酒田市と内陸部の山形市との相違がより鮮明となったといえる。山形県における調査結果として有益であるだけでなく、東北地域や北陸、山陰といった他地域との比較においても今後の基盤となり得る一報であるだろう。

#### 注

- 1) 拙稿「弘前市立図書館所蔵「往来物」について—関西文化との関係から—」(『関西文化研究叢書別巻 往来物の研究 第1輯』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2006年3月)、拙稿「弘前市立図書館蔵『都花月名所』考—近世期の京都観—」(『関西文化研究叢書別巻 往来物の研究 第3輯』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2007年3月)、拙稿「往来物の「女ことば」について」(『関西文化研究叢書 10巻』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2008年11月)、拙稿「近世期における「御所ことば」の記載について—東京大学総合図書館蔵「往来物分類集成」からの報告—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第104号、2010年10月)、拙稿「国語資料としての『都花月名所』—江戸時代後期における漢字表記と振り仮名—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第106号、2011年10月)、拙稿「『南都名所記』についての一考察—山形県立博物館教育資料館所蔵本の資料性—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第110号、2013年10月)等参照。
- 2) 拙稿「岩手県立図書館所蔵の往来物について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第100号、2008年10月)、拙稿「八戸市立図書館 旧遠山家所蔵の往来物について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第102号、2009年10月)、拙稿「秋田県立図書館所蔵の往来物資料について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第103号、2010年3月)、拙稿「酒田市立光丘文庫所蔵の往来物資料—目的と出版地からの分類分析—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第107号、2012年3月)、拙稿「山形県立博物館教育資料館所蔵の往来物資料—目的別分類からの考察—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第108号、2012年10月)、拙稿「山形における江戸時代の書籍流通について—往来物資料の出版地域からの検討—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第109号、2013年3月)、拙稿「秋田県立図書館所蔵往来物の出版地域に関する一考察—弘前・酒田・山形との比較検討—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第111号、2014年3月)等参照。
- 3) 拙稿「富山県立公文書館所蔵の往来物資料について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第114号、2015年10月)、拙稿「高岡市立中央図書館所蔵の往来物資料について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第115号、2016年3月)、拙稿「長岡市立中央図書館文書資料室所蔵の

往来物—横山家文書からの報告—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第118号、2017年10月)、拙稿「新潟長岡「斯道館資料」の往来物について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第119号、2018年3月)、拙稿「新潟県立図書館の往来物資料について—目的別の観点から—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第120号、2018年10月)、拙稿「新潟県立図書館の往来物資料について—出版地域別の観点から—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第121号、2019年3月)、拙稿「石川県立図書館所蔵の往来物について—特殊文庫における調査報告—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第122号、2019年10月)等参照。

- 4) 拙稿「島根県立図書館所蔵の往来物資料について—目的別と出版地域別の分類整理—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第125号、2021年3月)、拙稿「鳥取県立図書館所蔵の往来物資料について—目的別と出版地域別の分類整理—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第126号、2021年10月)、拙稿「米子市立図書館所蔵の往来物資料について—目的別と出版地域別の分類整理—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第127号、2022年3月)、拙稿「島根県立図書館所蔵の貝原益軒著作資料について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第128号、2022年10月)、拙稿「山口県立図書館所蔵の往来物資料について—目的別と出版地域別の分類整理—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第129号、2023年3月)、拙稿「萩市立図書館所蔵の往来物資料について—目的別と出版地域別の分類整理—」等参照。
- 5) 分類については、石川松太郎著『往来物の成立と展開』(雄松堂、1988年)、石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典 解題編』(大空社、2001年)、石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典 図版編』(大空社、2001年)を参考とした。
- 6) 『国書総目録 第1～9巻』(岩波書店、1963～1976年)参照。
- 7) 『古典籍総合目録 第1～3巻』(岩波書店、1990年)参照。

#### 【付記】

貴重な文献資料の閲覧や撮影、ならびに掲載許可をいただくなど、研究にご協力とご助力をいただいた、山形県立図書館の関係者各位に心より感謝申し上げます。

本稿は、科学研究費助成事業 JSPS KAKENHI (基盤研究 (C) 課題番号19K00620) の助成を受けた研究成果の一部です。

(2023.12.12 受理)